

2022年度日本財団助成事業

コミュニティカフェ等、地域共生社会のための活動の担い手育成

報 告 書

主催 公益社団法人 長寿社会文化協会 (WAC)

助成 日本財団

啓発イベント 「地域共生社会ボランティアのすすめ」事業完了報告書

1. 趣旨・目的

若者から高齢者を対象とし、地域に根差したボランティア活動の人材を発掘し、地域活性化の担い手とし、様々な活動に積極的に参加して欲しいとの目的で開催。

(中長期) 地域福祉啓発イベントの参加者や地域共生ボランティア養成講習修了者が、地域福祉関連の講習や活動に参加し、地域共生ボランティア養成講習修了者がボランティア活動に参加、認知症カフェや子ども食堂などの立上げ、地域に新たなコミュニティや地域資源を創出。地域共生社会の実現を目指す。

(最終) ボランティア活動が時代に即して多様になり、多様な人々の参加が容易となり、地域福祉が進化・発展すること。

2. 事業実施内容 (仙台市、京都市)

啓発イベント	仙台会場	京都会場
日 時	2022年9月25日(日) 14時～16時20分	2022年10月2日(日) 14時～16時20分
会 場	仙台西シルバセンター 第一研修室 宮城県仙台市青葉区北栄第一丁目3-2	京都市国際交流会館 特別会議室 京都市京都市左京区粟田口烏居町2-1
基調講演	池田昌弘 NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター理事長	平瀬昇 社会福祉法人大阪ボランティア協会理事長
パネルディスカッション	清水福子 認定NPO法人あかねグループ理事長 佐藤宏英 NPO法人おりざの家理事長 対馬良美 認定NPO法人キッズドア東北事業部長	小辻寿規 立命館大学准教授・NPO法人つながるKYOTOプロジェクト理事長 宇野明香 NPO法人happiness理事長 狭間明日菜 パザールカフェ
ファシリテーター	浅川澄一 ジャーナリスト、NAC理事	浅川澄一 ジャーナリスト、NAC理事
参加人数	30名	24名
後 援 (啓発イベント)	仙台市教育委員会 社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会	京都市教育委員会 社会福祉法人 京都市社会福祉協議会 公益財団法人 京都新聞社会福祉事業団 社会福祉法人 大阪ボランティア協会 NPO法人 つながるKYOTOプロジェクト NPO法人 happiness パザールカフェ NAC 近畿ネットワークセンター NAC さくらんぼ京都
事業協力団体	NPO法人 全国コミュニティライフサポートセンター 認定NPO法人 あかねグループ NPO法人 おりざの家 認定NPO法人 キッズドア NAC東北ネットワークセンター	
広報掲載	河北新報社(啓発イベント・養成講習) シルバー新報 (啓発イベント・養成講習・オンデマンド配信)	京都新聞社(啓発イベント・養成講習) 朝日新聞社(啓発イベント・養成講習) 読売新聞社(啓発イベント・養成講習) 京都市社会福祉ボランティアセンター (啓発イベント) シルバー新報 (啓発イベント・養成講習・オンデマンド配信)

3、成果と反省点

成果としては、開催地域で長年にわたりボランティア活動をしている団体を招いて講演やパネルディスカッションを行ったことで、開催地域で求められているボランティア活動の種類や抱えている問題や課題、その解決方法などを生の声で聞くことで、地域共生社会についての理解がより一層深まり、今後のボランティア活動参加へのきっかけ作りの一助となった。特設イベントがきっかけとなり、最終的に地域のボランティア団体等に登録し、継続的に活動に参加することは、地域共生社会への第一歩となり、長寿社会文化協会（WAC）が、啓発イベント参加者と地元ボランティア活動団体との橋渡し役となったことは大きな成果といえる。今後ボランティア活動に参加した方が、家族、友人知人等を誘い、共にボランティア活動に参加できるようになることを期待したい。年代を越えた活動の輪が広がることを期待するとともに、今後も協力やサポートをしていきたい。また、コロナ禍で対面での活動が縮小されてきた中で、感染対策をおこなないながら開催できたことは、今後の行事等の開催に向けての大きな一歩となった。

反省点としては、当初計画では、各会場集客目標 250 名だったが、予定数より参加者が少なくなった。その要因として、①会場の収容人数やコロナ感染防止対策の関係で募集人数を減らしたこと。②公共機関を中心にチラシの配架を行ったが、まだコロナ禍で出控える傾向にあったことで、来訪者に手に取ってもらい機会を損やすために、もっとチラシの色使いや装飾、レイアウト（配架時にラックに入れたときに何のイベントなのかが一目で分かるようにするなど）にも工夫すれば良かったと思う。③新聞やネットなどの無料掲載での周知をおこなったが、予算の都合で有料広告を使用しなかった。そのため大がかりな周知にならなかったため、多くの人への周知に至らなかった。④チラシの発行が遅くなったため、ボランティア活動を支援している学校（大学）等への告知が遅れたことで、開催時期に行事や予定が入って参加できないとのことだった。⑤チラシに参加申込締め切り日を記載したことで、より参加しにくくなった。参加者アンケート等で今後に向けた要望や改善点なども寄せられたので、今後の事業に活かしていきたい。

4、今後の展望

啓発イベントや地域共生ボランティア養成講習に参加した方が、自分に合ったボランティア活動を見つけ、それぞれの地域に根ざした活動に参加して欲しいと願っている。

ここ数年コロナ禍で対面活動ができなかったことで、従来の対面でのボランティア活動ができずに活動の縮小、中止等を余儀なくされてきた。しかし、zoom やオンデマンドといったコミュニケーションツールなども取り入れて、新しい活動の方法を模索しつつある。今後は、対面での活動や様々な方法で「地域共生ボランティア活動」の手助けとなれるように、協会としても協力をしていきたいと思う。

今後も事業協力団体と交流を続けながら、情報等交換をおこない、地域共生ボランティア活動のサポートを続けていきたいと思う。

5、オンデマンド配信

配信期間	2022年1月5日～3月6日
配信内容	「地域共生ボランティアのすすめ」京都会場（10/2収録）
配信形態等	「ギガファイル便」にて、無料オンデマンド配信
申込人数	40名

1、成果と反省点

成果としては、無料でオンデマンド配信をおこなったことで、開催地域以外からの申し込みが多くあった。無料でオンデマンド配信の気軽さと地域共生ボランティアに興味のある方が、配信期間内に好きな日の好きな時間で視聴できたことは、コロナ禍での新しい参加の方法ともいえる。視聴後のアンケートの返信は残念ながら少なかったが、回答された方からの満足度・理解度ともに高かった。地域共生ボランティア活動に、今後活かしていただけることだろう。

反省点としては、仙台・京都2カ所のオンデマンド配信を予定していたが、収録の画質不良により仙台会場の配信ができなかった。また、今事業共通の課題である周知の方法を、もっと工夫できれば良かったと思う。

「地域共生社会ボランティア養成講習」事業完了報告書

1. 趣旨・目的

若者から高齢者を対象とし、地域に根差したボランティア活動の人材を発掘し、地域活性化の担い手とし、様々な活動に積極的に参加して欲しいとの目的で開催。

(中長期) 地域福祉啓発イベントの参加者や地域共生ボランティア養成講習修了者が、地域福祉関連の講習や活動に参加し、地域共生ボランティア養成講習修了者がボランティア活動に参加、認知症カフェや子ども食堂などの立上げ、地域に新たなコミュニティや地域資源を創出。地域共生社会の実現を目指す。

(最終) ボランティア活動が時代に即して多様になり、多様な人々の参加が容易となり、地域福祉が進化・発展すること。

2. 事業実施内容（仙台市、京都市）

ボランティア養成講習（全3回）

仙台会場		京都会場	
日時①	2022年10月22日（土）14時～16時	2022年10月23日（日）10時～正午	
会場	トークネットホール仙台 第6会議室 宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園4-1	ハートピア京都 第4会議室 京都市京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町 375	
講師	昆布山良樹 東京オリンピック・パラリンピックボランティア	小辻寿規 立命館大学准教授、つながるKYOTOプロジェクト理事長	
内容	ボランティアの楽しみを知らう～総合編	ボランティアの楽しみを知らう～総合編	
人数	8名	7名	
日時②	2022年11月5日（土）14時～16時	2022年11月6日（日）10時～正午	
会場	トークネットホール仙台 第2会議室 宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園4-1	ハートピア京都 第4会議室 京都市京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町 375	
講師	清水裕子 認定NPO法人あかねグループ理事長	金治宏 京都光華女子大学准教授、NPO法人happiness 理事	
内容	ボランティアの楽しさを知らう～実践編	ボランティアの楽しさを知らう～実践編	
人数	11名	7名	

【見学・実習】（参加は、1人1回）

日時	2022年11月19日（土）14時～16時	2022年11月19日（土）、24日（木）10時～正午
会場	認定NPO法人キッズドア 宮城県仙台市宮城野区榴岡3丁目25	バザールカフェ 京都市京都市上京区烏丸今出川上4-1-10松町 252
講師	野島良美（認定NPO法人キッズドア東北事業部長）	後間明日美
内容	団体の概要説明と学習支援の様子を見学	団体の概要説明とカフェでの手伝い
人数	4名	各1名
日時		2022年11月23日（水）15時～17時
会場		NPO法人happiness 京都市南区唐崎川久保町1番地
講師		宇野明香（NPO法人happiness 理事長）
内容		団体の概要説明と子ども食堂の手伝い
人数		1名

3、事業成果と反省点

成果としては、啓発イベントの参加者が、地域共生ボランティア養成講習に参加したことで、地域共生社会についての理解がより一層深まり、今後のボランティア活動参加へのきっかけ作りとなった。全日程参加を対象として募集したところ、集まりが感かたため、参加可能日のみの参加も可能に変更したことで、より多くの方の参加が可能となった。また、座学の講義のみではなく、見学・実習を取り入れたことで、現場の様子を見たり、体験することで、ボランティア活動参加へのハードルを少し低くできたと思う。これにより見学・実習先でのボランティア登録をされた方もおり、現在活動中である。最終的に地域のボランティア団体等に登録し、継続的に活動に参加することは、地域共生社会への第一歩となり、長寿社会文化協会（WAC）が、地元 NPO 法人や活動団体との連携し役となれたことは大きな成果といえる。今後、参加者等が家族、友人知人等を誘い、共にボランティア活動に参加できるようになることを期待したい。年代を越えた活動の輪が広がることを期待するとともに、今後も協力をしていきたい。コロナ禍で対面での活動が縮小されてきた中で、感染対策を行いながら開催できたことは、今後の行事等の開催に向けての大きな一歩となった。

反省点としては、当初計画では、各会場集客目標 25 名だったが、啓発イベントからの地域共生ボランティア養成講習への参加者が予想より少なかった。啓発イベント以外からの参加者も予想より少なかった。その要因として、①啓発イベント時に、地域共生ボランティア養成講習の募集広報をもっと積極的に行うべきだったと反省している。②公共機関を中心にチラシの配架を行ったが、まだコロナ禍で出控える傾向にあったことで、来訪者に手に取ってもらう機会を増やすために、もっとチラシの色使いや装飾、レイアウト（配架時にラックに入れたときに何のイベントなのかが一目で分かるようにするなど）にも工夫すれば良かったと思う。③啓発イベントの参加者に多く参加してもらいたいと考えて、告知・募集を啓発イベントのチラシの裏側に記載して募集をしたが、配架期間の関係で啓発イベント終了後に撤去された可能性もあり、人目に触れる機会が減ったことも考えられる。④新聞やネットなどの無料掲載での告知をおこなったが、予算の都合で有料広告を使用しなかった。そのため大がかりな告知にならず、多くの人への告知に至らなかった。⑤チラシの発行が遅くなったため、ボランティア活動を支援している学校（大学）等への告知が遅れたことで、開催時期に行事や予定が入って参加できないとのことだった。⑥チラシに参加申込締め切り日を記載したことで、当初計画では全 3 回の日程に全て参加できることを条件に入れたためより参加しにくくなった。途中から 1 日でも参加可能にして再募集を行ったことで、数名の追加参加があった。これらの反省点や参加者アンケート等で指摘のあった事柄などを踏まえて、今後の活動やサポートに活かしていきたい。

4、今後の展望

今回の啓発イベントと地域共生ボランティア養成講習に参加した方が、自分に合ったボランティア活動を見つけ、それぞれの地域に根ざした活動に参加して欲しいと願っている。

見学・実習を行ったことで、協力団体へのボランティア登録をされた方もあり、アンケートでは、満足したとの声が多かったため、講習がきっかけとなり異なる活動に繋がっていくことだろう。

今後も協力団体と交流を続けながら、情報交換等をおこない、地域共生ボランティア活動のサポートを続けていきたい。

「地域共生ボランティアのすすめ」 アンケート集計表

アンケート枚数：40 参加者：54名（回収率74%） 参加申込数：59名（参加率：93%）

NO.1 イベントに対する満足度を教えてください。

a. 大変満足した	b. 満足した	c. あまり満足しなかった
19	19	
d. 満足しなかった	e. 未回答	
0	1	1



NO.2 地域共生社会に関して理解が深まりましたか。

a. 理解が深まった	b. まあまあ理解できた
32	7
c. あまり理解できなかった	d. 未回答
0	1



NO.3 参加してみたいボランティア活動がありますか。（複数回答あり）

内容（大まかな種類ごと）	件数
・子ども食堂 ・見守り ・登校支援 ・子育て応援 ・子供と触れ合えるような	7
・高齢者舟 ・食事作り	1
・高齢者 ・身体障害者支援 ・高齢家族と一緒に参加	5
・あかねグループでの活動 ・ハピネスでの活動	2
・趣味を活かした ・清掃 ・モバイル屋台 ・まちライブラリー	4
・未回答 ・活動中でできない ・考え中	19

NO.4 これからのボランティア活動についてご意見ください。（複数回答あり）

- ・無理のないようなボランティア活動で、少しでもボランティアに参加してみたいと思う人が増えるといいと思う。
- ・就労しながらのボランティア活動はなかなか難しいと思う。つながりのなかでの気にかかる、見守りなどをしていきたい。
- ・前向きで継続すること。
- ・学習支援は、最近のドラマのような内容で、ガクボラがすでにおこなわれているんですね。
ドラマはベンチャー企業の話でしたが志は同じ、これからの素敵な活動ですね。皆さんの活動はすばらしいです。
- ・元気な女性や女性の活動についてはよく分かった。
男性の活動例が少ないと感じた。（男性の取り扱いの難しさ？/今後、一人暮らしの男性の「集う」の場を作れたらなーと思うがどうしたものか？）
- ・ボランティアとかまえずに、小さなつながりや助け合いと考えて普段の生活でも実践していきたい。
- ・これからは“地域共生社会”へと移行していくということ、とてもわかりやすく説明をしていただきました。
- ・何かボランティアに参加してみたいと思っはいるが、ボランティアグループの方々の強い絆に途中から入っていくのにとっても勇気が必要で、なかなか一歩を踏み出せない状態です。
- ・ボランティアという言葉にこだわらず身の回りで気がついたことから声をかけることと思います。
柵の木を切ってしまうかと思っはいましたが、ご近所に声がけて欲しい人にわけてあげて、ご近所のつながりをつくっていったらと思っはいました。
- ・このような活動があることを地域に広めたいです。

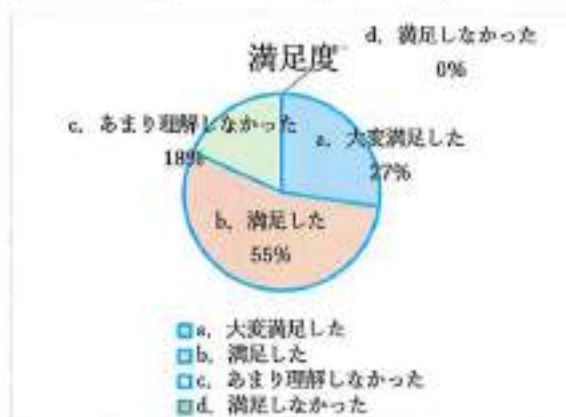
- 地域のつながりが深まるようなボランティアが増えてほしい。
- ベビーボランティア：専任の活動家として、空き日利用ボランティア：仕事やほかの活動の空いている時間利用などのボランティアの紹介を積極的に行っていきます。
- 活動されている団体さんの状況が知れて良かったです。市内の同じように活動されている方の情報共有がされると良いです。
- コロナの影響で関係も参加も難しくなっているけれど、その中で自分が何をする事が出来るかを考えていきたいです。
- 自分だけの考えでなく、活動出来る環境を作ることが大切だと思うのです。いくら看板（テーマ）で煽振りしても相手に伝わらない。適切なメッセージであれば意味がありません。気軽に参加出来るそんな環境を作らないと人は集まってこない。特に男性はなじまないのではドアをオープンにする何かの魅力をアピールする必要があると思います。今日は勉強になりました。
- このような機会が何回か今後開催されれば積極的に参加してみたいと思いました。ありがとうございました。
- コロナ対策をしっかりもって活動に参加する。
- 地域の行事などに参加して、手振いの回数を増やしたい。現在子供たちの支援をしているのが忙しいので少しずつやって行きたい。
- 体力、健康増進に役立つかがつづいて欲しい。
- 自分のため、人のために活動できれば嬉しいです。みんなで支えあい、楽しい安心できる日々になれば、世の中の変化がよい方に。
- 参加したいハードルを下げる（出入りしやすいように）、単発のプログラムを設定することが学びになりました。
- 自分の「好き」が活動につながり、親かに届くことをイメージすることができました。今回の学びを自分の言葉でつたえたいです。
- 今は多くの人の休日の過ごし方は「買い物や行楽地に行く」「趣味に打ち込む」だと思いますが、そのくらい自然な感じで自分たちの楽しいことでボランティアやまちづくりされる喜びが増えたらいいなと思います。
- 身体的に取り戻める、道徳のようなものが見えるのかと思い、やってきたが難しすぎた、バザールカフェの「ただ在ることの価値」という言葉がフィットしました。ゆっくりとした「ケア」というのも良い言葉でした。実行したいです。
- いろんな形の活動があり、公的なサービスや支援から外れてしまう方々のサポートがされていること、そこに携わるボランティアの方々の協力がとても重要な役割となっていることを知りながら、どこか特別な活動と思いがちですが、皆さんの活動からは必要とされていることを楽しみながら発展させて楽られる活動を感じ、とても刺激になりました。
- 改めて自分の「好き」を御伽しして、見極めていきたい。始めるにあたってハードルを低く、かかわりを持っていきたいです。SDGsの取り組みに関わる目的をもった所にも関心を持っていきたい。
- ボランティア活動をしたと思ったタイミングで実際にできず現在に至っています。身の周りで困っている課題は沢山あると思います。人々が共にくりをまずは自分自身の中で風笛を持って考えていきたいと思っています。
- 今回の講演を拝聴参加し、様々なアプローチの仕方を知ることができました。有難うございました。
- ボランティアをしていて、自由参加が難しいのが現状です。出ないとならないという感じで、疲れています。出入りの自由なボランティアって観望ですね。
- どんな人でも気軽に当たり前にボランティア活動できるような社会になれば良いと思う。
- コロナが少しずつ落ち着きつつある中、ボランティアをしたいという方が少しずつ増えてきています。
- 中間支援組織として興味を持った方の「気になる」や「好き」な気持ちをもたらすことがないよう、色々なボランティア活動情報、ボランティアを募集している団体を把握しておこうと思います。貴館な時間をありがとうございました。

「地域共生ボランティアのすすめ」無料オンデマンド配信 アンケート集計表

アンケート枚数：11 参加者40名（回収率27%）

№.1 講演に対する満足度を教えてください。

a. 大変満足した	b. 満足した
3	6
c. あまり満足しなかった	d. 満足しなかった
2	0



№2. 地域共生社会に関して理解が深まりましたか。

a. 理解が深まった	b. まあまあ理解できた
7	4
c. あまり理解できなかった	d. 未回答
0	0



№.3 現在、活動しているボランティア活動はありますか。（自由記述）

1. ある	2. ない
6	5

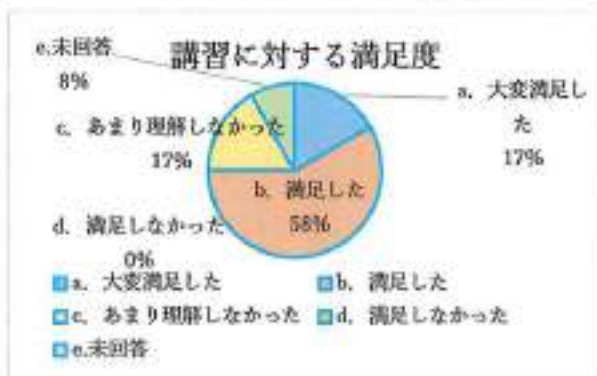
- ・自然保護活動（里山再生など）ボランティア活動の範囲が大きいので、自分に合った活動を探して参加することで、無理なく長く続けられると思いました。今参加しているボランティア活動は、規模が大きく、長く続いている活動団体ですが、人数も減り高齢化しているのと、考え方が昔のまま時代にあわなくなっていきます。無理をして活動に参加しているので、疲れ果てているのが現状です。講演を聞いて、無理しないで活動しようと思えるようになりました。
- ・コミュニティカフェのような地域の中で自由に集まれる場所に関わってみたい
- ・子ども食堂、フードドライブ、認知症カフェ
- ・ゴミ拾いや生ごみを発酵させ肥料にする
- ・限界自治体を20年以上続けている町で事務局をしています。自分がこれからできることは、「ボランティア活動を奉仕活動にしないように努める」「出来ない」を「したい」ことにかえ、「できる環境をつくる」「必要だけれど人気のない活動のフォローを考える」だと思いました。ありがとうございました。
- ・滞日外国人のお世話や交流
- ・活動は、地域の清掃活動。活動してみたいことは、こども食堂、何か役に立ちたい、特に知識のないものでもできる事、同じ考えを持っている人との時間の共有。
- ・地域の子供からお年寄りすべての人々による共生社会作り活動への参加。

「地域共生ボランティア養成講習」 アンケート集計表①

アンケート枚数 : 12 参加者 : 22 名 (回収率 55%)

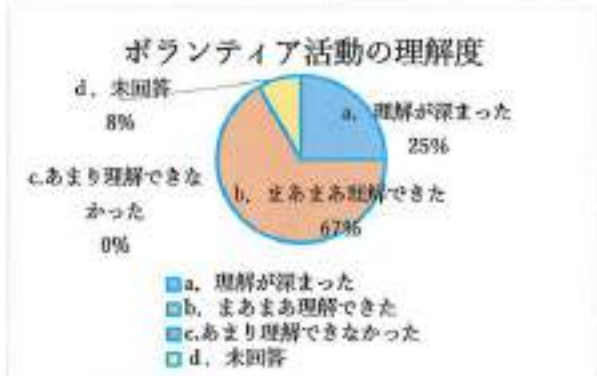
№0.1 講習に対する満足度を教えてください。

a. 大変満足した	b. 満足した	c. あまり満足しなかった
2	7	
d. 満足しなかった	e. 未回答	
0	1	2



№0.2 地域共生社会に関して理解が深まりましたか。

a. 理解が深まった	b. まあまあ理解できた
3	8
c. あまり理解できなかった	d. 未回答
0	1



№0.3 あなたが参加できるボランティア活動とはどんな活動ですか。

1. 回答あり	2. 回答なし
11	1

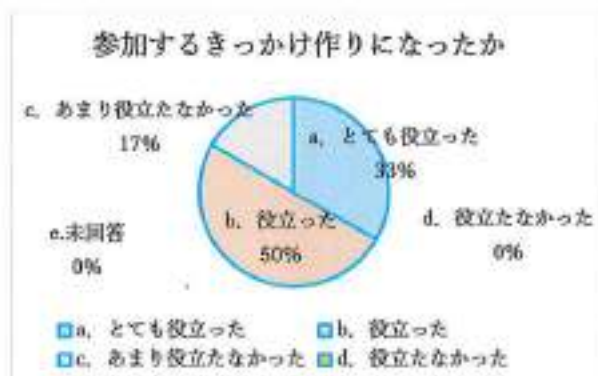
- ・ボランティア活動の探し方がわかって良かったです。
ボランティアでも様々なものがあるとわかりました。
自分でネットを使って、よく調べて見ようと思います。
- ・ボランティアとは？活動しての色、自己診断、楽しい講座でした。
色々な活動があると思いました。勉強になりました、ありがとうございました。
- ・いろんな方のボランティアに対する意見が良かったです。
昆布山さんのように私もいろんなボランティアをしたいと思っています。
- ・オリンピックボランティアの話は大きすぎて、身近に感じられなかった。
色々な方とお話が出来てボランティアのイメージも広がった。
今はコロナの拡大で無理かもしれませんが、高齢者福祉施設で、お話し相手や掃除などのボランティアが希望です。お年寄りに本の読み聞かせをするボランティアがあるといいのですが、調べても見つかりません。
どこかでそのような活動をしているグループはあるでしょうか。
- ・何かしたいですね
- ・高齢、障害、児童の分野
- ・自分自身が楽しみ、高められる活動
- ・最初から最後までスクール形式だったので、グループワークで気軽に話したかった。
大学の話のくだりは特に不要に感じた。他の人の話の後に色々とききたいことがあった。
- ・まだこれから学んでいかないと、何をすれば良いのか分かりません。
- ・人のため、自分のために何かしたい。
- ・広い意味では、社会のニーズをあきらかにできる。
制度のはざまやマイノリティの人たちのこまりごとが、制度や自治体の取り組みなどにつながっていくための活動だと思います。

「地域共生ボランティア養成講習」 アンケート集計表②

アンケート枚数 : 7 参加者 16名 (回収率 55%)

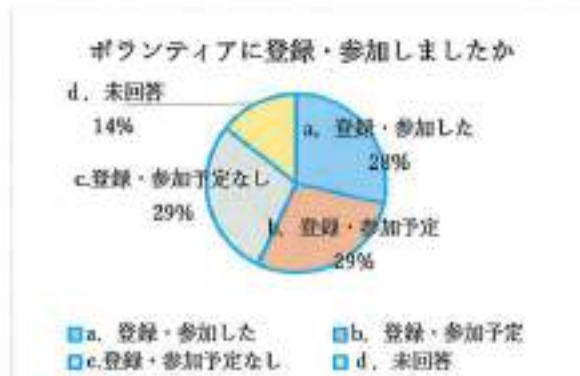
No.1 地域共生ボランティア養成講習を受講して、ボランティア活動に参加するきっかけ作りとなりましたか。

a. とても役立った	b. 役立った	c. あまり役立たなかった
2	3	
d. 役立たなかった	e. 未回答	
0	0	1



No.2 ボランティア団体に登録またはボランティア活動に参加しましたか。

a. 登録・参加した	b. 登録・参加予定
2	2
c. 登録・参加予定なし	d. 未回答
2	1



No.3 参加したボランティア活動の内容や参加できなかった理由などをお教えてください。

1. 回答あり	2. 回答なし
6	1

- ・講習に模試で1度参加できませんでした。実習先(キッズドア)では本来高校生はあまり来てはいけなかったみたいですが、そのことについて知らされておらず当日知ることになりました。そのようなことがありましたら、事前にお知らせくださると嬉しいです。
- ・参加したボランティア活動では、主に中学生から高校生の子どもに勉強を教えつつコミュニケーションをとった。活動に参加するにあたっての悩みは、ボランティアの人数が多くなかなか人を覚えられないこと、慣れないことだ。
- ・私はすでにボランティア団体に活動しております。受講者の方々とグループワークの時、ボランティア活動の楽しさ、自分づくり、仲間づくりを伝えさせていただきました。
- ・「ボランティア」とは色々なそれぞれの考え方がありますが、目的意識を強く持ちながら活動するか、しないかでその重さが違って来ると考えております。「何の為に?」と考えて活動すると、人を支える、助け合うという精神が自分自身の生きる力になるのだと思います。「苦楽をわかち合う」それがボランティアの原点だと信じております。
- ・講習会では大変お世話になりました。ありがとうございます。1回目の講習会の際の講義で、オリンピックのボランティアをされた方が体験談をお話いただきましたが、あまりにも実生活からかけ離れたボランティアについてでしたので、もう少し地域に根ざした内容の方が良かったのではないかと思います。1、2回目とも講義後に参加者がグループに分かれて、皆様のボランティア経験や色々な意見を話し合い、お聞きできたのはとても有意義でした。ボランティアの実習先が2か所だったのですが、選択肢があまりにも少なすぎて、せめて5か所くらい(もっと多くても良いと思います)の実習先があったなら、自分のやりたい内容を吟味し、体験できて、今後の活動にもつなげることができたのではないかと思います。協会のご発展をお祈り申し上げます。寒さが厳しいですので、ご自愛ください。
- ・まだ具体的に何のボランティアが出来るのか考えております。

「地域共生ボランティアのすすめ」 仙台会場風景



会場：仙台市シルバーセンター第一研修室 挨拶：NAC 東北ネットワークセンター 司会：佐藤美樹氏
金子賢二氏

講演風景：「地域共生ボランティアのすすめ」



講演：NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター理事長 池田昌弘氏

パネルディスカッション風景：～地域共生社会への活動～



パネラー

認定 NPO 法人あかねグループ
理事長 清水福子氏

NPO 法人おりざの家
理事長 佐藤宏美氏

認定 NPO 法人キッズドア
東北事業部長 對馬良美氏

ファシリテーター 浅川澄一氏

「地域共生ボランティアのすすめ」 京都会場風景



会場：京都市国際交流会館 2階 特別会議室 (右) 開会の挨拶・司会
WAC 近畿ネットワークセンター 高倉幸次氏
(左) 閉会の挨拶：WAC 事務局長・理事 小林里美

講演風景：「地域共生ボランティアのすすめ」



講演：社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長 早瀬昇氏

パネルディスカッション風景：～地域共生社会への活動～



ファシリテーター 浅川澄一氏

パネラー

立命館大学准教授

NPO 法人 happiness

パザールカフェ

NPO 法人つながる KYOTO

理事長 宇野明香氏

狭間明日実氏

プロジェクト理事長 小辻寿規氏

地域共生ボランティア

のすすめ



開催日 令和4年9月25日(日) 午後2時~4時20分(開場1時45分)

主催 公益社団法人 長寿社会文化協会 (WAC)

会場 仙台市シルバーセンター 7階 第1研修室(仙台市青葉区花京院1-3-2)
JR仙台駅、地下鉄仙台駅から徒歩8分、地下鉄南北線広瀬通駅から徒歩8分

対象 ボランティア活動に興味がある方

参加費 無料 定員 150名(先着順)

申込み 令和4年8月1日~9月10日、TEL・FAX・フォーム(詳しくは裏面をご覧ください)

持ち物 筆記用具をご持参ください。マスクを着用してください。

【講演】14:00~14:50

NPO法人 全国コミュニティライフサポートセンター
理事長 池田 昌弘 氏

<プロフィール>

全国社会福祉協議会、栃木県社会福祉協議会、
社会福祉法人東北福祉会「せんだんの杜」副
社長などを経て、2005年から現職。特別養
護老人ホームのユニットケア、在宅サービス
の小規模多機能型居宅介護、共生型サービス
の制度化に関わる。コロナ下で「つながりを

切らない情報・交流ネットワーク」共同代表、「未来の豊かな「つながり」のための全国アクション」共同事務局として、つながり続けることの大切さを発信している。



【パネルディスカッション】15:00~16:20 ~地域共生社会への活動~

認定NPO法人 あかねグループ
(高齢者配食サービス、認知症カフェ)

理事長 清水 福子 氏

NPO法人 おりざの家(子ども食堂)
理事長 佐藤 宏美 氏

認定NPO法人 キッズドア(学習支援)
東北事業部長 劉馬 良美 氏

ファシリテーター
福祉ジャーナリスト 浅川 澄一 氏

主催：公益社団法人 長寿社会文化協会 〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-8 日本女子会館 1階
TEL：03-5405-1501 FAX：03-5405-1502 担当：久保田 E-mail：kubota@wac.or.jp

後援：仙台市教育委員会、社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会

協力：NPO法人 全国コミュニティライフサポートセンター、認定NPO法人 あかねグループ、NPO法人 おりざの家、認定NPO法人 キッズドア

ボランティア活動の楽しさを知ろう！語ろう！体験しよう！

「地域共生ボランティア養成講習」

地域共生ボランティア活動の担い手育成を目的として、講座と見学実習を行います。グループワークで気軽に語り合い、見学実習で実際に現場を体験します。ボランティア活動のきっかけ作りとなるような講習です。

	日時・会場	カリキュラム	講師・協力先等
第1回	令和4年10月22日(土) 午後2時～午後4時	「ボランティアの楽しみを知ろう ～総合編」	東京オリンピック・パラリンピック ボランティア <small>昆布山</small> 良則氏
第2回	令和4年11月5日(土) 午後2時～午後4時	「ボランティアの楽しさを語ろう ～実践編」	認定NPO法人 あかねグループ 理事長 清水 福子氏
会場	トークネットホール仙台(仙台市民会館) 第6会議室(10/22)・第2会議室(11/5) 地下鉄南北線勾当台公園駅「公園2」出口から徒歩10分、地下鉄東西線大町西公園駅「西1」出口から徒歩10分 JR仙台駅前仙台TRビル前60番乗り場から仙台市営バス「定禅寺通市役所前経由交通局東北大学病院前」行き、市民会館前下車		

見学実習	令和4年10月～12月 (各実習先と調整)	「ボランティア活動を 見て・体験してみよう」	認定NPO法人 あかねグループ 他
------	--------------------------	---------------------------	----------------------

参加対象：ボランティア活動に興味がある方。上記3回の講習すべてに出席できる方。

定員：20名 参加費：無料 見学実習費：500円

申込期間：令和4年8月1日(月)～10月11日(火)。定員になり次第、締め切ります。

申込方法：下記の申込用紙でFAXか、電話で「講演・養成講習に参加希望」とお伝えください。
または、下記のフォームでお申し込みください。

－ 申 込 み (仙台会場) －

公益社団法人 長寿社会文化協会(WAC) 宛

TEL 03-5405-1501

FAX 03-5405-1502 (切らずにFAXしてください)

フォーム <http://bit.ly/3yExrjh>



フォームQRコード

参加するイベントに☑を入れて、申し込んでください。

<input type="checkbox"/>	9月25日(日) 「地域共生ボランティアのすすめ」		
<input type="checkbox"/>	10月22日(土)、11月5日(土) 「地域共生ボランティア養成講習」		
氏名	(ふりがな)	携帯電話	-
年齢	歳 在学中の方 (大学・高校生)	住所	〒 -
メールアドレス		このイベントを 知った経緯	<input type="checkbox"/> 長寿社会文化協会(WAC)のホームページ <input type="checkbox"/> 長寿社会文化協会(WAC)のFacebook <input type="checkbox"/> チラシ(場所:) <input type="checkbox"/> その他()

*個人情報は、「地域共生ボランティアのすすめ」及び「地域共生ボランティア養成講習」のみに使用し、公益社団法人長寿社会文化協会「個人情報保護規程」に基づき適正に処理いたします。

地域共生ボランティア

のすすめ



開催日 令和4年10月2日(日) 午後2時~4時20分(開場1時30分)

主催 公益社団法人 長寿社会文化協会 (WAC)

会場 京都市国際交流会館 2階 特別会議室(京都市左京区粟田口烏居町2-1)
地下鉄東西線蹴上駅から徒歩6分
市バス5・100系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」から徒歩10分

対象 ボランティア活動に興味がある方

参加費 無料 定員 80名(先着順)

申込み 令和4年8月1日~9月10日、FAX・TEL・フォーム(詳しくは裏面をご覧ください)

持ち物 筆記用具をご持参ください。マスクを着用してください。

【講演】14:00~14:50

社会福祉法人 大阪ボランティア協会
理事長 早瀬 昇氏



＜プロフィール＞

1955年大阪府生まれ。1973年京都工芸繊維大学工芸学部(電子工学科)入学と同時に「交通遺児を助ます会」の活動に参加。交通遺児家族支援、地下鉄バリアフリー化活動に参加。欧州の障害者グループホームでケアワーカーを経験。1978年大阪ボランティア協会入職。自他ともに認める熱烈な阪神タイガースファン。ビールズをこよなく愛する。フルボディーの赤ワイン党。

【パネルディスカッション】15:00~16:20 ~地域共生社会への活動~

NPO法人 つながる KYOTO プロジェクト 理事長
立命館大学 准教授 小辻 寿規氏

NPO法人 happiness(子ども食堂)
理事長 宇野 明香氏

バザールカフェ(コミュニティカフェ)
狭間 明日実氏

ファシリテーター
福祉ジャーナリスト 浅川 澄一氏

主催：公益社団法人 長寿社会文化協会 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館1階

TEL：03-5405-1501 FAX：03-5405-1502 担当：久保田 E-mail：kubota@wac.or.jp

後援：京都市教育委員会、社会福祉法人 京都市社会福祉協議会、京都新聞社会福祉事業団

協力：社会福祉法人 大阪ボランティア協会、NPO法人 つながる KYOTO プロジェクト、NPO法人 happiness
バザールカフェ

ボランティア活動の楽しさを知ろう！語ろう！体験しよう！

「地域共生ボランティア養成講習」

地域共生ボランティア活動の担い手育成を目的として、講座と見学実習を行います。グループワークで気軽に語り合い、見学実習で実際に現場を体験します。ボランティア活動のきっかけ作りとなるような講習です。

	日時・会場	カリキュラム	講師・協力先等
第1回	令和4年10月23日(日) 午前10時～正午	「ボランティアの楽しみを知ろう ～総合編」	つながるKYOTOプロジェクト 理事長 立命館大学准教授 小辻 寿規 氏
第2回	令和4年11月6日(日) 午前10時～正午	「ボランティアの楽しさを語ろう ～実践編」	NPO法人 happiness 理事 京都光華女子大学准教授 ^{かみし} 金治 宏 氏
会場	ハートピア京都 第4会議室 地下鉄烏丸線丸太町駅直結、バス「烏丸丸太町」下車すぐ		

見学実習	令和4年10月～12月 (各実習先と調整)	「ボランティア活動を 見て・体験してみよう」	・任意団体 バザールカフェ ・NPO法人 happiness 他
------	--------------------------	---------------------------	-------------------------------------

参加対象：ボランティア活動に興味がある方。上記3回の講習すべてに出席できる方。

定員：20名 参加費：無料 見学実習費：500円

申込期間：令和4年8月1日(月)～ 定員になり次第、締め切ります。

申込方法：下記の申込用紙でFAXか、電話で「講演・養成講習に参加希望」とお伝えください。
または、下記のフォームでお申し込みください。

－ 申込み(京都会場) －

公益社団法人 長寿社会文化協会 (WAC) 宛

TEL 03-5405-1501

FAX 03-5405-1502 (切らずにFAXしてください)

フォーム <http://bit.ly/3NFLbyp>



フォームQRコード

参加するイベントに☑を入れて、申し込んでください。

<input type="checkbox"/>	10月2日(日) 「地域共生ボランティアのすすめ」		
<input type="checkbox"/>	10月23日(日)、11月6日(日) 「地域共生ボランティア養成講習」		
氏名	(ふりがな)	携帯電話	- -
年齢	歳 在学中の方 (大学・高校生)	住所	〒 -
メールアドレス		このイベントを 知った経緯	<input type="checkbox"/> 長寿社会文化協会(WAC)のホームページ <input type="checkbox"/> 長寿社会文化協会(WAC)のFacebook <input type="checkbox"/> チラシ(場所:) <input type="checkbox"/> その他()

*個人情報は、「地域共生ボランティアのすすめ」及び「地域共生ボランティア養成講習」のみに使用し、公益社団法人長寿社会文化協会「個人情報保護規程」に基づき適正に処理いたします。

無料オンデマンド配信

WAC
WORLDWIDE ASSOCIATION

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

地域共生ボランティア のすすめ



講演 早瀬 昇 氏

社会福祉法人 大阪ボランティア協会理事長

ボランティア活動の自由なスタイル
「地域共生」を生み出す市民の力
地域共生活動をはじめよう！
「参加」で生まれる市民の元気
仲間づくり、連携のための発想法

イベント名：日本財団助成事業「コミュニティカフェ等、地域共生社会のための活動の担い手育成」
「地域共生ボランティアのすすめ」（京都会場 2022年10月2日収録）

申込期間：2022年12月27日～

配信期間：2023年1月5日（木）～2023年2月28日（火）

（メールに送られるURLよりご覧いただけます）

開催形態：オンデマンド（期間中、好きな時間に視聴出来ます）

視聴時間：50分

対象者：地域共生社会ボランティア活動を理解したい方

申込方法：下記のフォームでお申し込みください。

<https://forms.gle/jCqjyC68whjkARjV7>

主催者：公益社団法人 長寿社会文化協会

お問い合わせ：〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館1階 フォームQRコード

TEL：03-5405-1501 FAX：03-5405-1502 担当：久保田 E-mail：kubota@wac.or.jp



フォームQRコード